

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2008年(平成20年)

11月18日 火曜日

文系との連携 企業側期待

大学関西フォーラム



シンポジウムで意見を交わすパネリスト(17日午後、大阪市北区で)＝長沖真未撮影

大阪市北区で17日に開かれた「大学関西フォーラム」第8回シンポジウムでは、理系分野が中心だった連携

を文系にまで広げる意義や可能性について熱心な議論が交わされた。参加した大学や企業の関係者からは

「企業活動や地域の活性化に向けた産学連携のあり方を考える契機になった」などの感想が聞かれた。

△本文記事1面▽

「産業界や社会との連携の重要性を実感した」と大阪経済法科大の澤勲・地域総合研究所長。「大学人はもっと地域を知り、自らが果たす役割を見いだす必要がある」と語った。

関西大の木田勝也・広報課長は「様々な事例が紹介され、参考になった。今後文系分野の連携は強力に進めたい」と話した。

会場では熱心にメモを取る人が目立った。関西電力お客さま室エネルギー営業グループの中川貴元・副長は「文系との連携はあまり考えたことがなかったが、大学の着想を生かせるかもしれない」と期待。歯科用金属製造会社の開発部門に勤務する夏目和典さんは「大学との連携で、自社製品を新たな分野に活用するヒントが得られる可能性がある」と話していた。